

報告

大人の科学マガジン付録

「ガリレオの望遠鏡」での天体観望会報告

小野夏子☆（世界天文年企画委員会 ガリレオ望遠鏡 WG）

2008年3月28日に学研から販売された「大人の科学マガジン Vol. 19」には、「ガリレオの望遠鏡」のレプリカが付録となっている。イタリア、フィレンツェの博物館に飾られている2本の望遠鏡のうち1本を模したもので、口径と倍率を再現している。

事前にそのサンプルを入手することができたので、それを使用して2008年2月に観望会を行った。その時の参加者の感想を中心に報告する。今後、同様の企画を予定されている皆様の参考にしていただければ幸いである。

★日時：2008年2月19日（火）21:00～23:00
20日（水）21:00～22:00

★会場：玄海ロイヤルホテル第二駐車場
（福岡県宗像市）

★参加者：（日本プラネタリウム協議会研修会参加者）19日：約40名／20日：約20名

★観望対象：月、土星（すばる、シリウス、火星）

★観望方法：三脚を借用し、固定。
三脚提供：国際ランド&ディベロップメント株

★備考：同時開催で国際ランド&ディベロップメント株の移動式望遠鏡「ガリレオ」の実演観望も実施

＜参加者の主な感想＞

- ・望遠鏡の外観について、製品について
「かっこいい」
「遠くから見ると（鏡筒表面の模様などが）印刷に見えない」
「発売になったらぜひ買いたい。アマゾンで買えるよね」

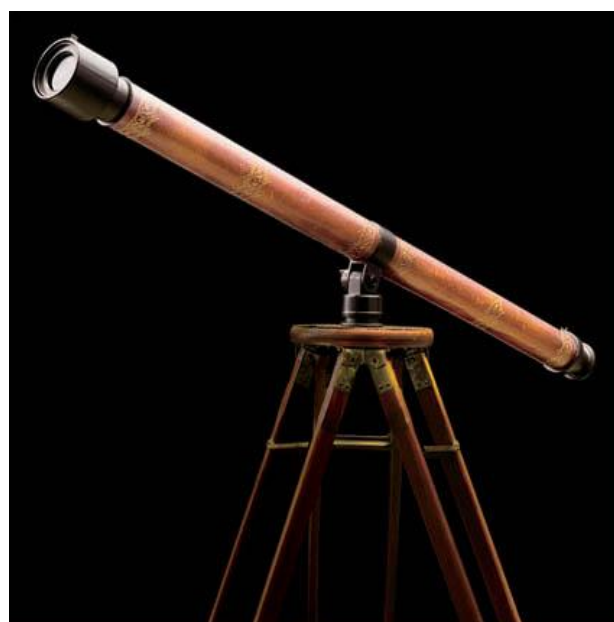


図1 大人の科学マガジン付録
「ガリレオの望遠鏡」

- 「欲しがると人がたくさんいると思う」
- ・覗いた感想
「視野が狭く見えにくい」（多数）
「現代の望遠鏡が如何に見やすいかわかる」
「（こんな見えにくい望遠鏡で見ていたのに）ガリレオは偉いと思う」（多数）
「（思ったより）良く見える。ガリレオが見ていたものはもっと見えないのではないか？」
- ・土星を見て
「（土星を見て）円ではないことはわかる」
「ピントを合わせたいが、筒に触れると視野から土星が出てしまう」（三脚の上に固定している）
「土星の環が見える。・・・来年（2009年）」

は、環の消失の年なので、見えないだろう。」
「衛星は見えない。」（「それは木星の話では？」と突っ込んだら、「あ、間違えた」と。）

＜今後の観望会へのアドバイス＞

(1) 満月に比較的近い大きな月を観望するのがお勧め

- ・明るい月を導入天体とすると、太陽黒点観測の時のように、望遠鏡の影と接眼部から出る光を投影像として捕らえ導入することができて便利である。
- ・月を見る場合は、肉眼で見上げた様子と比べてもらい「正立」で見えていることを確認したい。

(2) 観望時には三脚等に固定は必須

- ・倍率は高くないが、視野が狭いため手持ちでは、初めての人は導入困難と思われる。慣れた人が導入して、望遠鏡を固定し、交代で覗くのが良い。
- ・三脚が用意できない人のために同望遠鏡はペットボトルのキャップ部分に取付可。

(3) 観望対象としての「木星」「土星」

- ・ガリレオの見た「木星」「土星」についての話題を念頭において観望にあたりとより興味深く観察できる。
(ガリレオが望遠鏡を作った頃には、土星が環を持っている事は知られていなかった。)

(4) 天体導入の注意

- ・導入の際に「正立像」であることを忘れつい望遠鏡を逆に振ってしまうので注意！
(・・・って、私だけかな??)

(5) 望遠鏡進化 400 年の歴史を目の当たりにできる

- ・現在の望遠鏡を並べて観望し、見え方の違いを味わってもらいと、ガリレオの望遠鏡と現在の望遠鏡の見え味の違いが際

立つ。これを機に望遠鏡の歴史の話をするのも良いかも知れない。

＜参考＞

■望遠鏡の仕様

よく写真などで見かけるフィレンツェの博物館のガリレオの望遠鏡（2本あるうちの下側のもの）のレプリカ。外装だけでなくレンズの口径と倍率を再現してある。レンズは、アクリル製。

対物レンズの焦点距離：600mm

口径：33mm（絞り：22mm）＊絞りは着脱可。

倍率：20倍

＊ガリレオ式で見る接眼レンズの他にケプラー式で見る接眼レンズも付属。

＊三脚は付属していないが、市販のカメラマウントに装着可。

また、ペットボトルにも固定できるスクリーン付き。



図2 「大人の科学マガジン Vol.19」

価格 2,300円(税込)2008年3月28日発売

<http://otonanokagaku.net/magazine/vol19/index.html>

小野夏子☆